根来山げんきの森倶楽部

令和５年１０月作業日誌

活動日：令和５年 10 月 15 日(日)　9:30～15:30　天気：晴れ　倶楽部員：51 人

長く続いた猛暑がやわらぎ、ようやく秋らしく涼しくなってきたところ、１１月に入ってから季節外れの暑さが到来したりと今年の天気は落ち着きませんね。

１０月の作業日は、秋晴れのさわやかな空の下、汗を流しながらも和気あいあいと楽しく作業に励みました。来月からは冬季限定のお味噌汁作りも始まります！ぜひご参加ください。

里山整備

ゲート入り口と体験棟裏にある大きなアカマツが松くい虫被害で枯れたので処分しました。

ゲート裏のアカマツは高さは大したことがありませんが太さが50 ㎝を超え、おまけに車道の方に大きく傾いていたため、まず、一本はしごで木に登り車道側に張り出した太い枝を伐り落としました。こうすると、少しでも山側に引き起こしやすくなるためです。そうしておいて、幹の中ほどから少し上にワイヤーを掛け、チルホールを使って少しずつ引き起こしながらチェーンソーで切断していきます。重くてなかなか引き起こせませんでしたが、みんなで協力しながらなんとか思った方向に倒すことができました。

処分するにも太すぎて長さ40㎝程に切断してやっと力持ちのメンバーがさげられるほど。苦労して軽トラにして炭焼き広場まで運びました。

管理棟裏のアカマツは倒すために邪魔になる枯れ松とウバメガシを先に処理しておいてロープウインチで思った方向に倒すことができました。枯れマツはその場に処理しておきましたが、ウバメガシは炭焼きサイズにして運び出し、炭焼き広場に運んでおきました。

これだけ作業をしたあと、少し時間が残ったので漁民の森入り口ところで倒れていた大きなコナラの処理をすることにしました。

これは枯れてもいないコナラが雨も降らないのに突然倒れて歩道をふさいだので、応急処置で歩道に係る枝だけ処理していたのですが、この日は伐採技能者が集まっていたのですべて処理してもらうことにしました。

処理されたコナラは炭焼きや薪用に小切り、これまた炭焼き広場に運びました。

何とか夕方までに３本の大きな木の処理を完了させ、充実した作業日を終えました。　（岡田　和久）

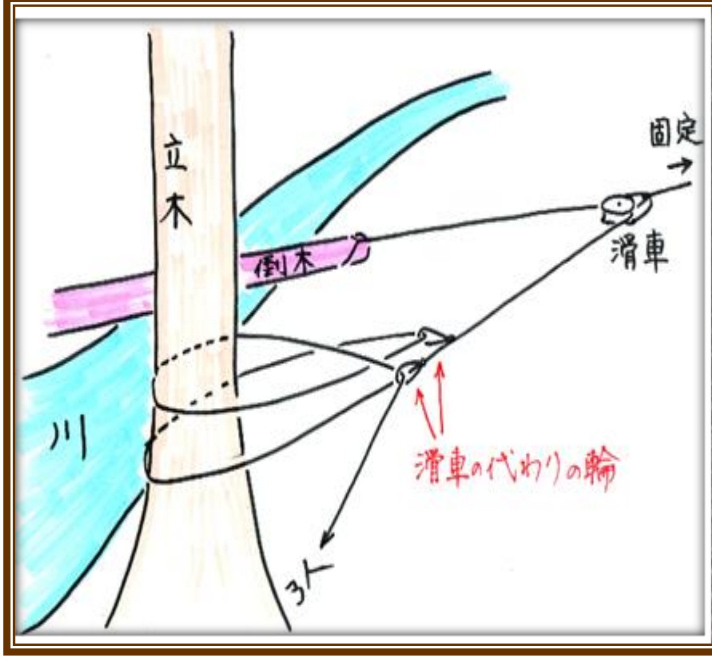
杉材運び出し　～ロープワーク、恐るべし！～

昨年架けた大谷川の丸太橋付近でのタンコロ用材木の運び出しが今回のミッション。すでに倒してあるスギやヒノキの枝を払い、テーラーに乗る程度の長さに材を切って川向こうの山側から道側へ運び出す作業が午前中の主な仕事でした。本当ならば、せっかく作った橋を利用して運びたいところですが、スリップしやすい状況でしたので、ロープワークで乗り切りました。

昼前から午後にかけては、大谷新池からの道中、道に出っ張って、枝が上に被さった２本のヒノキを伐採・撤去する作業でした。残念ながら、想定していた受け口の方向とは違う向きに倒れてしまい、ちょっと面倒なことに木の上半分は川から向こう岸にまで届いてしまっていました。高さがかなりある木で、枝の方向も複雑でしたので重心を読み切るのは簡単ではありません。さて、できれば川に落とさずにこちらの岸に引き寄せたいところですが、重さ自体も地面との摩擦も相当なものです。おまけに前日の晩、岩出付近はかなりの大雨で、道がゆるくテーラーさえも滑って坂を登れないような状況でしたので、林内作業車もここまでたどり着くのは難しそうです。こんなことになるとは思ってもいなかったので、滑車も１つしか持ってきていませんでした。しかし、少なくとも道を塞いでいる下半分は今日中に撤去しなければなりません。

ここで、この難題を解決するすごい技術を教えてもらうことができました。引っ張る方向を変えるためのたった一つの滑車以外はロープだけで“重いやつ”を動かすベテランの技です。挿絵のようにロープに小さな２つの輪を作りそれを滑車代わりにすれば、４倍の力を出すことができる「なるほど」な方法です。なんと僅か３人でロープを引っ張っただけで、あの“重いやつ”を動かすことができてしまいました！(@_@)　もちろん、「楽々」というわけではないですけどね。悪路のため、材をテーラーに積んで管理棟まで持ち帰るのは断念せざるを得ませんでしたが、本日の任務は最低限のところで完了。

帰り際、「ヒノキの切り株、いい匂いがしますね」とつぶやくと、Ｈさんから「持って帰って玄関や下駄箱に置いておくといいよ。」とのお話。「なるほど、クスの木だけじゃないんだ？」と思いながら、かけらをもらって帰りました。翌朝、家内曰く「もっともらってきて！」だそうな。上品な芳香剤、皆さんも試してみてはいかがでしょう…　　（楠　正暢）



炭出し

秋晴れの下いつもより少ない人数の７人で炭出しをしました。

煙突の整備をしたおかげで７日から 8 日かかっていたのが 4 日くらいで焼きあがるようになったそうです。窯の中を見ると白さが目立っていて、焼きすぎかなと、リーダーS 氏の所見でした。窯から出す人、配分する人、切断する人、計量する人、最後は袋を縛る人など作業を分担し少人数でしたが１時半ごろには炭出しと袋詰めは終了し、190Kg の製品が完成しました。趣味の話や雑談に花を咲かせながらの楽しい一日でした。　（新江　光弘）

巣箱外し

クラブ員５名で活動。

巣箱を 40 個外しました。40 個のうち巣立ちの形跡があったものは８個(2 割)でした。

巣立った後の巣箱の中を初めて見て感動でした。苔で分厚いマットを作り、その上に羽のないひなが寒くないように産座を獣毛できれいにつくってありました。卵の殻は親が処分するとのことです。

苔のマットまではつくってあっても産座がなければ途中でやめたということです。箱に接触したけど産卵までいかなかったものは４割くらいありました。

うまく行った場所の傾向としては、建物周辺は非常に成績がよく、バリアフリーよりは尾根につけた方がよかった傾向が見られました。見通しがよく、人の気配により天敵から守られているところが向いているらしいです。

一つの箱の卵は穴が空いて中身を吸い出されたようでした。自然博に持って行って教えてもらいます。　入る鳥はシジュウガラかヤマガラだそうです。

それにしても感動するのは竹の棒に取り付けた刃とひっかけるものが良い仕事をしてくれたことです。使い手が上手いのもあると思いますが毎回感動します。

この後、木工クラブが巣箱キットを作り、11 月に巣箱作りのイベント、12 月に巣箱かけがあります。　（萬賀　伊津子）

うるし谷整備

参加者は８名で経験豊富な倶楽部員ばかりなので、３班に分かれての作業となりました。

1．入り口の歩道斜面の竹の伐採＝２名
2．前月伐採済みのアラカシとアカメガシワの整理＝３名
3．入り口から奥、うるし植栽地までの草刈り＝３名

１班の作業

現場はとても急斜面で危険が伴うため、上から下に向っての作業では滑り落ちる可能性があるため、軽トラックの荷台に梯子をかけ、一人が支えながら上方に切っていくという危険を回避する方法をとりました。梯子上の作業でしたが、思いのほか安全にスムーズに進みました。すごく明るい入り口になりました。

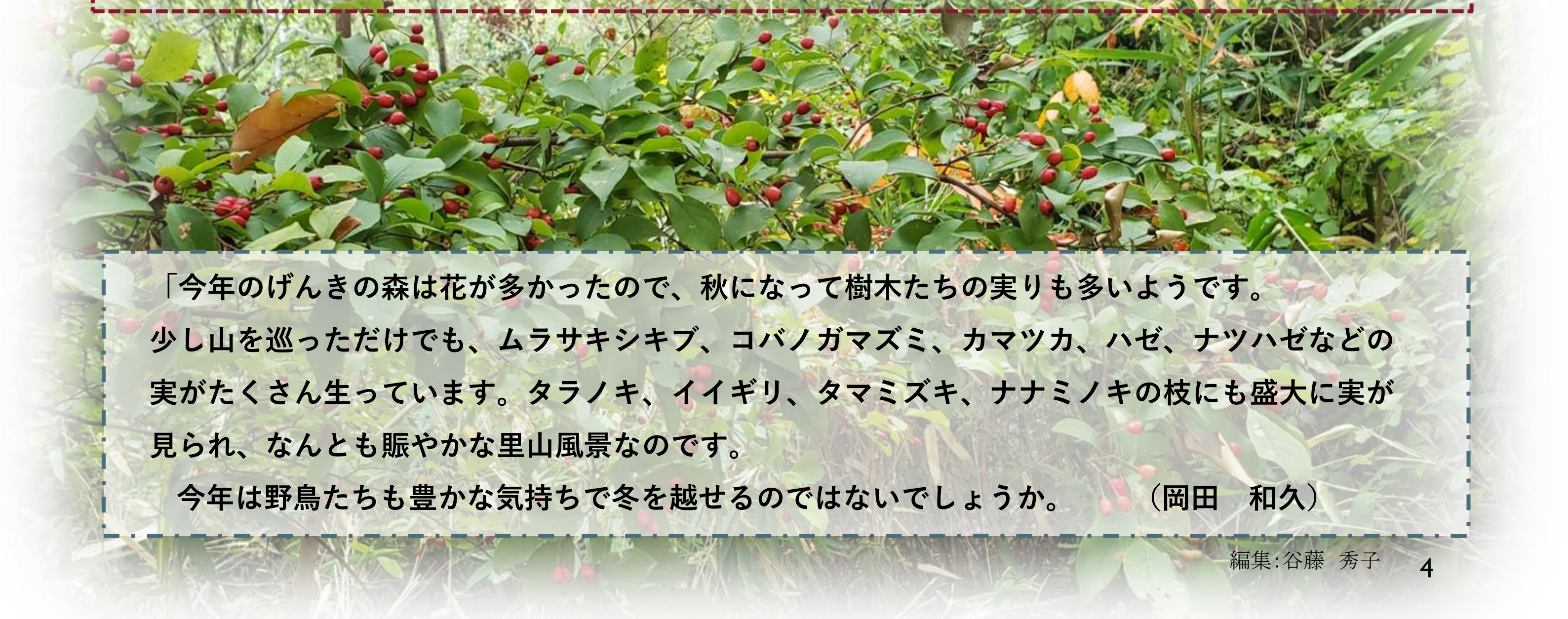
２班の作業

チエンソー１台で太い枝を切り、後は鉈と鋸で小さく処理していきました。
そして最後に直径 40 ㎝位ある大きなエノキを目指す方向へ見事に伐採しました。完璧でした。さすがでした。後は来月の整理作業となります。

３班の作業

僕は草刈り作業に参加しました。
うるし谷中央辺りから奥の植栽地にかけて、まだ 20 ㎝も伸びていない比較的柔らかい草ばかりでしたので、斜面地以外の作業ははかどりましたが、雨上がりの後なので、濡れた土が飛び散り大変でした。

気候が優しくなった事、そして手慣れた作業と経験豊富なベテランの方々のお陰で、何事もなく上出来の作業結果となりました。とても楽しい作業でした。皆さんありがとうございました。
それにしてもうるし谷は広いです！　　（林　哉也）



「今年のげんきの森は花が多かったので、秋になって樹木たちの実りも多いようです。少し山を巡っただけでも、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、カマツカ、ハゼ、ナツハゼなどの実がたくさん生っています。タラノキ、イイギリ、タマミズキ、ナナミノキの枝にも盛大に実が見られ、なんとも賑やかな里山風景なのです。
今年は野鳥たちも豊かな気持ちで冬を越せるのではないでしょうか。　（岡田　和久）